

テーマ

氏名

共同実験者

仮説

- | | | | | | |
|-------|---------------|---------------|-------|-------|-------|
| 1. 目的 | 2. 使用する器具, 材料 | 3. 実験方法
文献 | 4. 結果 | 5. 考察 | 6. 参考 |
|-------|---------------|---------------|-------|-------|-------|



テーマ

グループ内で一致

氏名 1501 恵那太郎 共同実験者 1522 東濃二郎 1611 武並三郎 1644 苗木咲子

仮説

グループ内で一致

この実験で検証される原理や法則性について端的に、断定型で記す

1. 目的

グループ内で一致

2. 使用する器具, 材料

グループ内で一致

※ 後輩が同じ実験をするとき
必要なものがすべて準備できるか
必要に応じて図示する (イラストではない)

3. 実験方法

- ※ 番号をつけて順に示す
- ※ 必要に応じて図示する (イラストではない)
- ※ 必要に応じて, 製作物などの諸元を記載する

- (1)
- (2)
- (3)
- ⋮
- (6) ○○の条件を変え, (3)~(5)を繰り返す
- (7) ○○と△△のグラフをかく。
- (8) ◆◆と□□のグラフをかく。

4. 結果(データを示す(表, グラフ))

表1 ○○○○

グラフ用紙
貼り付け

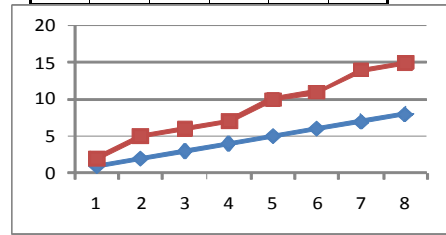


図1 △△△△

測定値はできるだけ正確に読み取り記録する。良い結果ではないからといって、測定値を変更してはならない

5. 考察

仮説, 目的と関連させる。
当初のテーマや仮説, 目的から
ずれないこと。

- データ処理(平均, グラフ化など)した結果と予想される結論や数表の数値を比較し, 今回の結果の妥当性を検討する。
- 誤差が生じた場合はその原因を考察する。
- 新たに生じた疑問についても述べる。

6. 次の実験について

- テーマ, 仮説, 目的, 方法を書く。
- 今回の実験結果と考察から
次回の実験について簡潔に述べる。
(感想や意気込みではない)

7. 参考文献

実験にあたって参考にした文献や数表を明記する
(書名, 著者名, 出版社名)